

スーパーサイエンスハイスクール(S S H) 3期目の取り組み

1 研究開発課題

科学の世界をグローバルに牽引する「サイエンスクリエイター」の育成

2 研究開発の目的

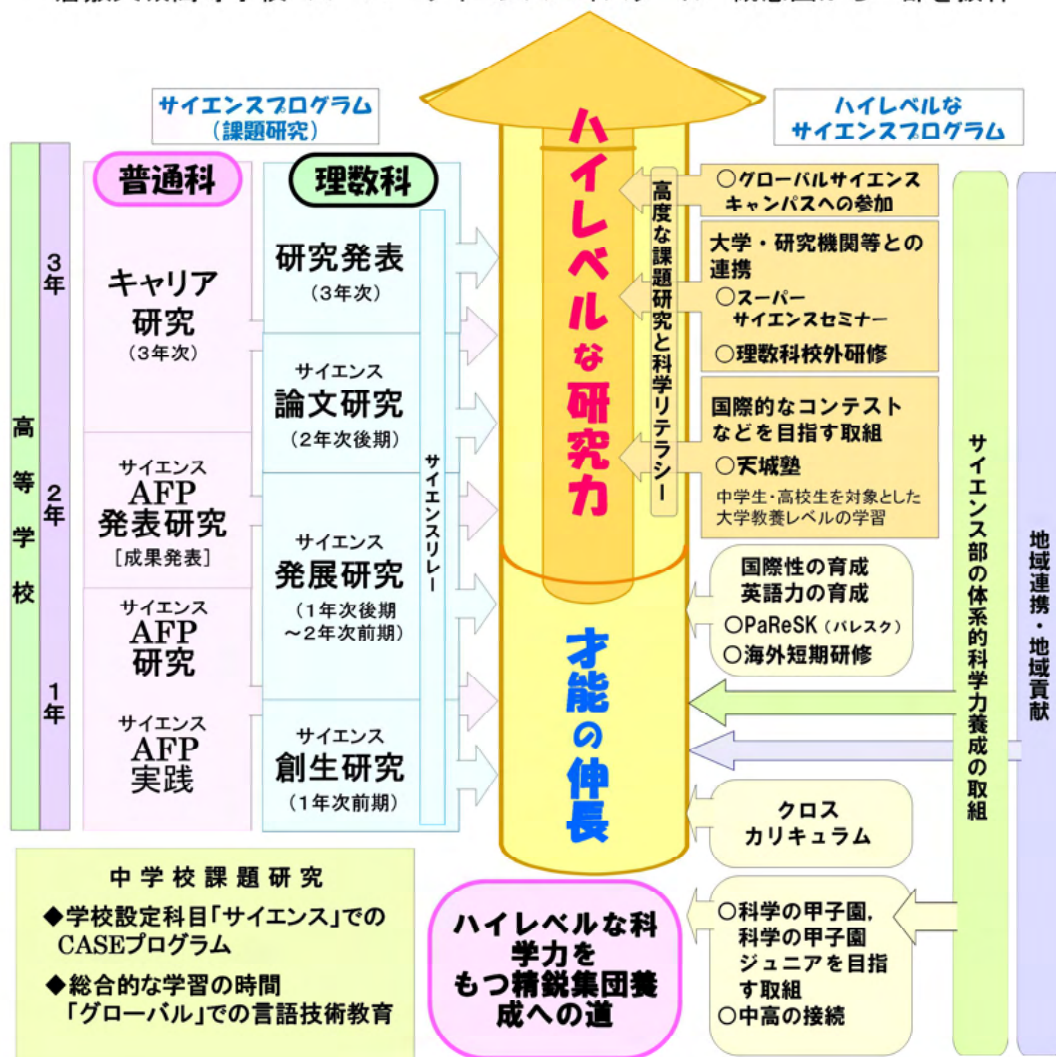
新たな「知」を創造し、グローバルに活躍できる科学技術系人材「サイエンスクリエイター」を育成する。

3 研究開発の目標

「サイエンスクリエイター」に必要な「インテイク力」「メタ認知力」「コミュニケーション力」を育成するために、3期目の成果と課題を踏まえた新たな研究開発を行う。本研究では、「サイエンスクリエイター」が備えるべき力を次のように定義する。

- | | |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 「インテイク力」 | 身の回りの自然事象や素材などに興味を持ち、研究対象として価値あるものを拾い出すとともに、課題を設定し課題解決までの道筋をデザインできる力 |
| ② 「メタ認知力」 | 課題解決に当たり、独創的な発想と論理的な思考力を持って研究を推進するとともに、研究の途中で定期的に振り返りを行うことにより研究のプロセスを客観視し、検証・改善、軌道修正を行うことのできる力 |
| ③ 「コミュニケーション力」 | 科学研究の成果を他者に分かりやすく説明する力、他者からの質問に対して的確な回答を返すことのできる力に加えて、他者の研究発表を傾聴し、議論することによって理解を深めようとする力 |

倉敷天城高等学校 スーパーサイエンスハイスクール 概念図から一部を抜粋



令和元年度 理数科の取り組み

I. 教科・科目における取り組み

1 1年次生対象（※詳細については「理数科1年次生実践報告」参照）

(1) 創生研究（前期：毎週木曜日6・7限）

1年次前期の実施科目である。課題研究のためのグループ形成と研究テーマの設定を行い、研究活動を実践する中で、科学的思考や基礎的な研究スキルについて学習する。また、研究グループ内でのディスカッションや協働を通して、研究目的に合致した適正な研究の方向性を見出す過程を体験する。

月	日	学習内容
4	18, 25	ガイダンス，課題研究の意義を説明，ポスターセッション
5	9	研究グループを形成，研究テーマ(仮)の設定
	18	研究計画（ロードマップ）作成
	30	研究活動
6	6, 13, 20, 27	研究活動
7	11	科学英語実験プログラム①（化学実験）
	18	科学英語実験プログラム②（化学実験）
	25	研究活動
	26	オープンスクール1（2年次生とともに活動）
9	12	研究活動
	19	研究活動と発表準備
	26	中間発表①の準備（本年度，中間発表を発展研究10/4で実施）



研究グループづくりのためのポスターセッション



研究内容を適正なものにするためのディスカッション

(2) 科学英語実践

7月11日（木），18日（木）6・7限「How does the volume of air change by temperature change?」と題して、英語による化学実験の授業が行われた。岡山大学大学院教育学研究科の喜多雅一教授をはじめ、同大学の教員研修留学生在が講師を務めた。

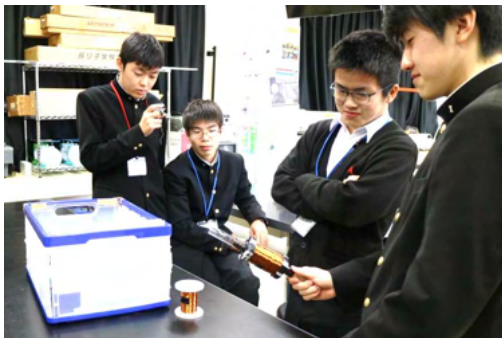


「How does the volume of air change by temperature change?」の授業風景

(3) 発展研究（後期：毎週木曜日 6・7限）

理数科の課題研究として、1年次後期から2年次前期にかけて実施する科目である。創生研究からの研究を継続し、研究内容の修正に伴うグループの再編の可能性も含め、担当教員がよりきめ細かく指導する。今年度(1年次前期)は、次の日程で実施した。

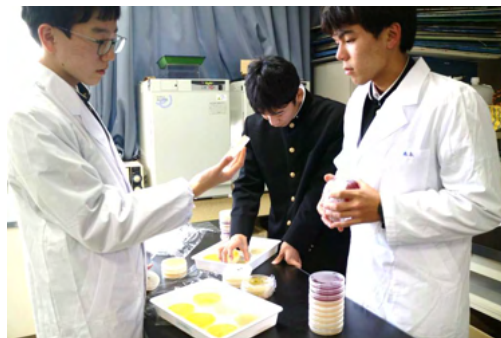
月	日	学習内容
10	3, 10, 24, 31	課題研究(実験・観察・測定) (定期的に研究の方向性を検証する) ※10/3は、創生研究中間発表会 ※1/22は、2年次生校内発表会に合流(含、理数科シンポジウム) ※2/6は、発展研究中間発表会
11	7, 14, 21, 28	
12	12, 19	
1	9, 16, 22, 23, 30	
2	6, 20	



物理の研究風景



化学の研究風景



生物の研究風景

2 2年次生対象

(1) 発展研究(前期：毎週水曜日 6・7限)

「発展研究」は、自ら設定したテーマについて、研究を実践する中で科学研究のためのサイエンスマインド、研究スキルを習得するために、2年次(後期)の理数科の生徒を対象に、1単位で設定した授業である。ただし、1年次(後期)1単位からの継続実施としている。

理科及び数学に関する事象について課題を設定し、観察・実験などを通して研究を行い、科学的に探究する問題解決の能力を身に付けることを目標とした。

① 内容(時程・展開)

(ア) 授業時間帯

実施内容は以下の表に示した。なお、第1回研究成果発表会は10月2日(水)に実施した。

実施回	月日(曜)・限		内 容
①	4月	10日(水)	6・7限 教員紹介・TA紹介→説明・研究計画 実験・観察・測定(1)
②		17日(水)	6・7限 実験・観察・測定(2)
③		24日(水)	6・7限 実験・観察・測定(3)
④	5月	8日(水)	6・7限 実験・観察・測定(4)
⑤		15日(水)	6・7限 実験・観察・測定(5)
⑥		29日(水)	6・7限 実験・観察・測定(6)
⑦	6月	5日(水)	6・7限 実験・観察・測定(7)
⑧		12日(水)	6・7限 実験・観察・測定(8)
⑨		26日(水)	6・7限 実験・観察・測定(9)
⑩	7月	3日(水)	6・7限 実験・観察・測定(10)
⑪		17日(水)	6・7限 第1回論文講習会
⑫		24日(水)	6・7限 実験・観察・測定(11)
⑬		26日(金)	午前 ※オープンスクール1 (2年研究活動公開)
⑭	9月	11日(水)	6・7限 実験・観察・測定(12) 報告書(仮論文)作成
⑮		18日(水)	6・7限 実験・観察・測定(13) 報告書(仮論文)作成
⑯		25日(水)	6・7限 報告書(仮論文)完成

(イ) 研究テーマ

1年次後期からの継続とし、物理4、化学2、生物3、数学・情報1の計10テーマである。
ただし、発展研究を進めていく中で、テーマの修正を行った。

研究テーマ(題目)		班人数
物理	水中を落下する球体の終端速度を求める	4
	ピン球の回転数に影響を与える要因について	3
	パスタを折る速さと破片の数の関係	3
	効果的な打ち水の量の提案	4
化学	墨液汚染布の洗浄と保護コロイド(膠)の関係	4
	瀬戸内海(岡山・香川間)における海水のイオン濃度の考察	4
生物	プラナリアの学習能力について	4
	ゴーヤ液のイースト菌における抗菌効果	4
	窒素固定能から、イシクラゲの休眠からの回復の様子を調べる	5
数学情報	インターネットから見る興味関心と売上の関係について	5

② 生徒の活動と様子

(ア) 研究活動

各研究グループでは、仮説を検証するための独自の実験装置を考案したり、地道に検証データをとるなど自分たちが考えた研究計画に則って熱心に研究に取り組んだ。また、担当教員全員が指導に当たり、ティーチングアシスタントとして岡山大学留学生が指導、アドバイスを与えた。

なお、本研究で作成したルーブリックを基に、科学論文の書き方、ポイントについての講義「論文講習会」を7月17日(水)、岡山大学大学院教育学研究科 稲田佳彦教授のご指導により実施している。



－物理の研究場面－



－化学の研究場面－



－生物の研究場面－



－数学の研究場面－

(2) 論文研究(後期：毎週水曜日6・7限)

「論文研究」は、1年間にわたって取り組んできた「発展研究」の成果を論文にまとめ、研究の成果を発信するための効果的なポスターやプレゼンテーションの作成を行う科目として実施した。校内の課題研究発表会や外部での発表会において専門家や研究者から得た指導助言を基に、追実験や再調査等を行い、論文の完成度を高めた。

論文やプレゼンテーションの評価は、「ルーブリック」を基準に行った。(詳細は次項)

①内容(時程・展開)

(ア) 授業時間帯

水曜日の6限、7限の2単位時間連続で設置した。年間(後期のみ)の実施内容を以下の表に示す。

実施回	月日(曜)・限		内 容
①	10月	2日(水) 6・7限	第1回課題研究校内発表会
②		9日(水) 6・7限	論文作成について
③		23日(水) 6・7限	論文・ポスター・スライド作成(1)
④		30日(水) 6・7限	論文・ポスター・スライド作成(2)
⑤	11月	6日(水) 6・7限	論文・ポスター・スライド作成(3)
⑥		13日(水) 6・7限	論文・ポスター・スライド作成(4)
⑦		20日(水) 6・7限	論文・ポスター・スライド作成(5)
⑧		27日(水) 6・7限	論文・ポスター・スライド作成(6)
⑨	12月	11日(水) 6・7限	論文・ポスター・スライド完成
⑩		18日(水) 6・7限	第2回課題研究校内発表会 兼 理数科合同発表会ステージ発表選考会
⑪	1月	15日(水) 6・7限	理数科合同発表会に向けての準備(1)
⑫		23日(水) 5～7限	第3回課題研究校内発表会(最終)(5～6限) 理数科シンポジウム(7限)
⑬	2月	5日(水) 6・7限	理数科合同発表会に向けての準備(2)
⑭		8日(土) 終日	岡山県理数科理数系コース 課題研究合同発表会(岡山大学)
⑮		19日(水) 6・7限	課題研究まとめの講演会

(イ) 活動内容

10月2日(水)に第1回校内課題研究発表会を実施し、生徒による相互評価を始め、教員によるアドバイスや指導助言を行った。

以後は、不十分な点について追実験を行ったり、追調査を行ったりしながら論文やプレゼンテーションの完成を目指し活動を行った。これと並行して各種コンテスト等に向けてポスターの作成を開始した。12月18日(水)には、令和2年2月8日(土)に開催される「第17回高大連携理数科教育研究会 第20回岡山県理数科理数系コース課題研究合同発表会」でステージ発表を行うグループを決めるオーディションを兼ねた第2回課題研究校内発表会を実施し、運営指導委員や校内外の先生方からアドバイスや指導助言を受けた。この発表会の結果、2グループが選出された。

1月23日(水)に第3回課題研究校内発表会を開催した。また、発表会の後、理数科シンポジウム(1・2年生研究交流会)を開催し、パネルディスカッションにより課題研究に関する活発な交流を行った。



論文講習会（岡山大学大学院教育学研究科 稲田佳彦 教授）

3 ルーブリックについて

本校SSHの研究の重点項目の一つとして、「進化するルーブリックをコアとした指導と評価の一体化」と題して研究を行っている。

(1) ルーブリックについて

教員の指導力向上と生徒の論文作成能力の向上を目的とし、平成19年度「理数系教員指導力向上研修」における「課題研究（課題研究論文を中心とした）ルーブリック」を基に作成した。このルーブリックは、「Ⅰ探究プロセスに関するルーブリック」「Ⅱ基本的な概念、原理・法則などについての体系的な理解に関するルーブリック」「Ⅲ科学的な考察と処理能力に関するルーブリック」「Ⅳ創造的な能力に関するルーブリック」の四つのカテゴリーからなっており、合計21の評価指標があった。本研究では、評価指標を論文評価だけに絞り、次の表のように17に精選した。

また、基となるルーブリックの尺度は、「十分(4)」「おおむね十分(3)」「やや不十分(2)」「不十分(1)」の四つからなっていたが、それぞれの尺度に対応した「記述語」が表記されていなかった。「ルーブリック」の定義としては「成功の度合いを示す数段階の尺度と、それぞれの評点・評語にみられるパフォーマンスの特徴を示した記述語から構成されます」とあるので、四つの尺度にそれぞれ対応した「記述語」を本校で新たに付け加えた。（この冊子では記述語は省略している）

本研究で作成したルーブリックは、絶対不変のものとして、今後教員や運営指導委員の意見等を取り入れながら改善を図り、進化させていくことにしている。

Ⅰ 探究プロセスに関するルーブリック	① 研究課題を決めるまでの道筋がはっきりと示されている。
	② 課題を明らかにするのに適した観察・実験を計画し、その観察・実験結果の見通しを述べている。
	③ 科学的客観性を持って観察・実験結果を収集できている。
	④ 観察・実験の結果から論理的に考察して結論に至っている。
Ⅱ 基本的な概念、原理・法則などについての体系的な理解に関するルーブリック	① 研究のテーマについてこれまでにわかっていることを十分に調べ、序論で整理して述べている。
	② 課題に関する既習事項を序論で取りあげ、研究に必要な専門用語や概念を十分に理解し、論文中で適切に用いている。
	③ 観察・実験の目的を十分に理解し、適切に行っている。また、得られた結果・データの意味をよく理解している。
	④ 得られた研究結果から結論に至り、その科学的な意味を理解している。
Ⅲ 科学的な考察と処理能力に関するルーブリック	① 誤差や精度について配慮した実験データが示されている。
	② 得られた研究結果・データを適切な図表やグラフで表している。
	③ 条件統一に留意し、必要ならば対照実験を行い、体系的に正確で十分な範囲のデータを収集している。
	④ 得られた研究結果を科学的に分析し、考察している。
	⑤ 参考文献を適切に本文中に引用し、直接得られたデータとインターネットなどからの2次情報を区別して、情報の質に注意を払っている。
Ⅳ 創造的な能力に関するルーブリック	① 課題の設定や問題の発見に独創性がみられ、その部分がわかりやすく示されている。
	② 観察・実験方法、探究方法に創意工夫が見られる。
	③ データ処理に創意工夫が見られる。
	④ 研究の価値を自己評価できている。

(2) ルーブリックの活用

本年度作成したルーブリックを活用して、物理、化学、生物、数学担当の教員がそれぞれの専門分野の論文を採点した。採点した論文は、物理4編、化学2編、生物2編、数学1編で、それぞれ物理3名、化学3名、生物2名、数学・情報2名の担当教員が採点した。

Ⅱ. 研修・コンテスト

1 理数科行事 理数科1年次生校外研修（蒜山研修）（8月1日～3日）

理数科行事として、2泊3日の日程で地域の特性を生かした研修内容について、本年度も、専門性の向上を目指し、大学の研究機関、大学教員と連携し、より高いレベルの自然科学や科学技術に対する理解を深める研修を実施した。（※詳細については「理数科1年次生実践報告」参照）

2 米国NASA短期研修（10月29日～11月3日）

NASA JPL（ジェット推進研究所）（アメリカ合衆国カリフォルニア州）での研修を中心に、生徒11名（1年次生8名、2年次生3名うち、理数科1年次生8名、理数科2年次生2名）を派遣し数々の科学施設を見学、講義を受けた。また、JPLでは、課題研究の内容を英語で発表し、研究者からの質問やアドバイスを受けた。この事業は、英語による理数授業や外国人研究者との交流、英語によるプレゼンテーションなどによって身に付けた語学力やプレゼンテーション能力を伸長させるための実践的な取り組みである。

3 研究発表会・学会への参加

- (1) 令和元年度中国四国地区生物系三学会合同大会（広島大会）高校生ポスター発表（令和元年5月11日）が広島大学東広島キャンパス（東広島市）で開催された。この大会に「分裂条件から見るナミウズムシの生存戦略」「熱に強いゴーヤジュースの抗菌効果」の2グループ（理数科3年次生8名）、「ゴーヤの抗菌効果」の1グループ（理数科2年次生3名）がエントリーし、ポスター発表を行った。なお、「分裂条件から見るナミウズムシの生存戦略」の研究グループは優秀賞を受賞した。
- (2) 2019年度応用物理・物理系学会中国四国支部合同学術講演会におけるジュニアセッション（令和元年7月21日）が高知工科大学香美キャンパスで開催された。この大会に「紙飛行機の軌道の解析と終端速度」（3年次生5名）、「自転車の安定性～ホイールベースと走行距離～」（3年次生6名）の2グループが参加し、がポスター発表を行った。
- (3) 第5回中高生のためのかはく科学研究プレゼンテーション大会（令和元年7月28日）が愛媛県総合科学博物館で開催された。「自転車の安定性～ホイールベースと走行距離～」（3年次生4名）が参加し、ポスター発表を行った。
- (4) 「令和元年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」（令和元年8月7～8日）が神戸市の神戸国際展示場で開催された。この大会に、「伸長過程におけるゴムの分子鎖のふるまい」（3年次生3名）がポスター発表を行った。
- (5) 第21回中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会（令和元年8月19～20日）が山口県山口市（山口県健康づくりセンター）で開催された。本校からは、「タンブラーの側面で踊りだす水～不規則な振動現象（ガクット現象）の発見～」（3年次生4名）がステージ発表、「熱に強いゴーヤジュースの抗菌効果」（3年次生3名）がポスター発表を行い、「タンブラーの側面で踊りだす水」はステージ発表優秀賞を受賞した。なお、ステージ発表の「タンブラーの側面で踊りだす水」は、第19回岡山県理数科理数系コース課題研究合同発表会（平成31年2月5日、岡山理科大学）のステージ発表において、最優秀賞を受賞し、本発表会ステージ発表の岡山県代表として発表を行った。

- (6) 第 63 回日本学生科学賞（読売新聞社主催）（令和元年 10 月）の岡山県審査に 3 年次生の全グループ（9 グループ）がエントリーし、以下の審査結果を得た。

県教育長賞	「タンブラーの側面で踊りだす水の謎～不規則な振動現象（ガクット現象）の発見～」
奨励賞	「伸長過程におけるゴムの分子鎖のふるまい」 「身近な食材・食品におけるクロロゲン酸の検出及びその定量法 ～化学的性質を利用して～」 「分裂条件から見るナミウズムシの生存戦略」

なお、県教育長賞を受賞した「タンブラーの側面で踊りだす水の謎～不規則な振動現象（ガクット現象）の発見～」の研究論文は中央予備審査に送られた。

- (7) サイエンスキャッスル関西大会 2019（令和元年 12 月 22 日）が大阪明星学園明星中学校・高等学校を会場に開催された。理数科からは、「パスタを折る速さと、その破片の数との関係性」（2 年次生 3 名）、「瀬戸内海（岡山・香川間）における海水のイオン濃度の考察」（2 年次生 4 名）、「大気圧，大気雰囲気中の誘電体バリア放電で発生したプラズマの発光パターン特性」（普通科 1 名を含む，1 年次生 4 名）の 3 グループがポスター発表を行い、「パスタを折る速さと、その破片の数との関係性」「瀬戸内海（岡山・香川間）における海水のイオン濃度の考察」「大気圧，大気雰囲気中の誘電体バリア放電で発生したプラズマの発光パターン特性」が研究奨励をそれぞれ受賞した。
- (8) 「集まれ！科学への挑戦者」（令和元年 1 月 26 日）が岡山理科大学 A 1 号館で実施された。本校理数科からは、「布に付着しない墨汁の作製」（2 年次生 4 名）、「大気圧，大気雰囲気中の誘電体バリア放電で発生したプラズマの発光パターン特性」（普通科 1 名を含む，1 年次生 4 名）の 2 グループがポスター発表を行った。
- (9) 第 15 回日本物理学会 Jr. セッション（令和元年 3 月 17 日）が九州大学伊都キャンパスで開催された。この大会に、「パスタを折る速さと、その破片の数との関係性」（2 年次生 3 名）、「大気圧，大気雰囲気中の誘電体バリア放電で発生したプラズマの発光パターン特性」（普通科 1 名を含む，1 年次生 4 名）の 2 グループが参加し、ポスター発表を行った。

Ⅲ. 進路関係

平成31年3月、理数科は18期生38名を送り出した。進路指導にあたっては、理数科の特性を活かし、AO入試・推薦入試を積極的に活用、きめの細かい指導を行った。入試結果を次表に記す。

■平成28～31年3月大学合格状況

国公立大学	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3
北見工	1			
北海道		1		
室蘭工		1		1
東北			2(A01)	
電気通信				1
東京		2	2	
東京学芸				
東京医歯		1		
横浜国立			1	
名古屋				
静岡	1			1
山梨				
信州	1			
京都		1		2
京都工芸繊維				1
大阪				1
大阪教育				
神戸				
鳥取			2(推1)	
岡山	5(MP1A01)	5(推1A01)	7(推1A01)	6(推1)
広島	1(A0)		1	
山口				
島根	1(推)	3(推2)	1	
徳島	3(CT推1)	2(CT推1)		
香川	4(推1)	3(推1)	2(推1)	2(推1A01)
愛媛	1(推)	1(推)	2	3(推1)
高知	1		1	1(推1)
九州	1		1	
九州工業				
大分				1
宮崎				
琉球				
秋田県立				
大阪府立			2	
兵庫県立		1		
岡山県立		3(推1)		1
広島市立		1		
高知工科	2			1
計	22	25	24	22

私立大学	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3
酪農学園				2
北里	2			
駒沢				
多摩美	1			
帝京				
東海				
法政	1			
明治	1			
東京造形	1			
青山学院		1(指推)		
東京理科			2	2
早稲田	1		1	1
神奈川工科			1	
金沢				
同志社	2		3	5(指推1)
立命館	1	1		5
龍谷				
京都女子				
近畿	2(推)	5	1	3
関西	1			
関西学院			2	1(推)
甲南	1			
神戸女学院		1		1(推)
岡山理科		6	8	3
清心	1	1(指推)	2	2
就実	1		2	4(推2)
中国学園	1(A0)			
倉敷芸術科学				1(推)
広島工	1(推)			2(指推1)
福山				1(推)
山口東京理科	1(推)			
防衛大		1		
防衛医大	1			
大阪芸術大短大	1(A0)			
川崎医福		4(推3)	4(A02)	6(A01推1)
吉備国際	1(自推)		1	
山陽学園	1			
広島国際	2(A01推1)			
広島修道		1(推)		
日赤広島看護				
川崎医療短				
済生会	1(推)		1(推)	
崇城		1		
九州情報		1		
計	26	23	28	39

- ※ 現役生のみ合格者数を示す
- ※ 「推」は推薦入試による合格を示す
- ※ 「A0」はAO入試による合格を示す
- ※ 「CT推」はセンター利用の推薦入試による合格を示す
- ※ 「指推」は指定校推薦入試による合格を示す
- ※ 「自推」は自己推薦入試による合格を示す

IV. 広 報 活 動

理数科では、総務課と連携して、中学生・保護者を対象に様々な広報活動を行っている。

1 第1回オープンスクール（7月26日）

理科や数学の実験・実習を通じて本校理数科の魅力を知ってもらうため、第1回オープンスクールの一環として「理数科中学生講座」を開催した。22回目の実施となるこの講座は、約25名の中学生が参加し理数科に関するガイダンスの後、「課題研究を体験する」体験講座が行われた。この講座では、2年次生の課題研究10テーマを中心に2年次生と1年次生が協力して、研究内容の説明や課題研究の楽しさを参加した中学生に説明した。



生徒による説明



グループ別に説明



課題研究を体験・2年次生物理分野



2 第2回オープンスクール（9月21日）

平成6年度から開催されているオープンスクールは、本校の広報活動イベントである。夏季休業中の第1回と趣向を変え、模擬授業や生徒会主催の学校紹介を実施している。模擬授業では高校の授業内容を紹介するもの、教科学習の面白さを体験できるものなど、多数の講座が開講された。理数科では、体育館での全体説明において、理数科を紹介する動画により説明を行った。

3 地区別懇談会（学校説明会）で理数科を紹介

地区別懇談会（日程・場所は右表参照、本年度は2か所で開催）では、本年度、理数科を紹介する動画を作成し、中学生や保護者に対して理数科の行事や取り組みをよりリアルな映像で紹介した。

■地区別懇談会（学校説明会）の日程と場所（平成29年度）

10月11日（金）	児島市民交流センター
10月18日（金）	本校コンベンションホール

4 理数科ホームページの活用

本校のホームページは平成10年から運用しているが、平成12年7月に一新されたのを機に、理数科ホームページを開設した。今年度、迅速な更新を念頭に、再度、構成の改訂に取り組んでいる。行事についての紹介のみならず、課題研究の成果や実習のまとめなど、写真を多用して分かりやすいページづくりを目指している。

5 『理数科集録』第19号の刊行

理数科では、1年間の活動をまとめた『理数科集録』を刊行し、本校の理数科生徒に配付するとともに、地区別懇談会(学校説明会)やオープンスクール等を通して、中学生やその保護者にも配付している。なお、第10号から、2年次生の研究論文をより完成度を高めたものにするため、校内課題研究発表会、理数科合同発表会の後に刊行することとした。構成は昨年度とほぼ同様である。理数科としての1年間の取り組みの総括、理数科行事に関する生徒の活動をまとめた1年次生の「創生研究・発展研究」の報告と、2年次生の「発展研究・論文研究」の研究報告からなっている。



理数科のページ(トップページ)

V. ボランティア活動・その他の活動

1 青少年のための科学の祭典 2019 倉敷大会

対象	主に岡山県内の小・中学生
期日	令和元年11月9日(土)・10日(日)
場所	ライフパーク倉敷・倉敷科学センター
内容	自ら体験できる科学実験や科学工作を中心にブースを設置

上記の大会は、次代を担う子どもたちに科学実験や科学工作などを直接体験できる機会を提供し、科学に対する興味や関心を高めさせることを目的に開催される大きなイベントである。本年度も倉敷天城高校は「色いろいろ(赤シソの色素と酸・アルカリ)」(化学分野)の内容でブースの企画・運営を行った。この大会には理数科1年次生がボランティアで参加し、このイベントを盛り上げた。



「色いろいろ(赤シソの色素と酸・アルカリ)」のブース

2 小学校理科実験授業(出前授業)

対象	小学生 44 名 (2～6 年生)
期日	令和元年 7 月 31 日 (水)
場所	岡山市立興除小学校
内容	「通り抜ける壁と色の謎」

理数科 1 年次生の科学への意識の向上と地域交流のため、近隣小学校(岡山市立興除小学校)への出前授業を行っている。事前準備での予備実験や模擬授業を通して得た経験が、課題研究の手法にフィードバックされ、また、小学生への説明を行うことでコミュニケーション能力の向上につながっている。今回は、偏光板を両側に貼って、まるで仕切りのあるように見える箱を作成したり、偏光板によって光が透過したり・しなかったりする様子やセロハンテープによる複屈折の様子を観察した。また、光の屈折で仕切りのあるように見える不思議な箱の工作を行った。



生徒による実験指導の様子

4 「きらり輝け！高校生キャリア教育フェア 2019」(活動紹介)

対象	県内高校生、小中学生、企業関係者、一般県民 等
期日	令和元年 11 月 24 日 (日)
場所	コンベックス岡山 (中展示場)
内容	理数科の活動紹介

本年度、岡山県教育庁の依頼に基づき、活動成果の発表と県民に対し、高等学校の活動を紹介することを目的に、ステージ発表 4 校(瀬戸高校、倉敷天城高校、岡山操山高校、和気閑谷高校)が発表を行った。本校では、発表スライドモーションキャプチャーを取り入れるなど工夫を凝らした発表活動ができた。また、本発表においては、発表内容やその方法、役割分担など全てのプロセスを 1 年次生と 2 年次生との協働により活動を行った。



発表の様子と発表に参加した 1, 2 年次生